

アマチュア無線って「美しき元祖出 会い系だった」と今さら確認したと いうお話し

JM1LZT 富山俊一

無線を再開して4年以上が経ちました。本当にあつという間の出来事で、全てがつい昨日のことのようです。その間、なんと言っても決定的だったのは240グループ諸兄との出会い。これがなければ今頃どうなっていたことやら。無線をやる喜びを共有してもらえる同士がいるということが、どれほど励みになってることか。なんてったって、家内には全く期待出来ませんから^^;

お世辞抜きで、240各局から、多くのことを学ばさせていただきました(そして今も学び続けています) かつて「太く短く」やってしまったと言えそうな私の「アマチュア無線第一期」に対し、細く長く(いや太く長く)やってらっしゃる諸兄のスタンス。ペース配分の妙を、いまだに正解がわからぬまま、諸兄の背中を追いかけ続けています。体力だけは相対的な年齢差で唯一みなさんにまさっているかもしれませんが、それ故、やたら高いところに移動し、デカイアンテナを上げてコンテストに臨んでいるのは、「これってやりすぎじゃね?」と、いまだ自問自答の日々です。

技術的なことについても、「勉強し直し」すべきことが(というより、新たに「学ぶべきこと」が)山のようにあるのが分かっている、なんだから理由をつけてサボりっぱなし。ついこないだ本誌に久保田さんが出されていた問題も解かず(解けず)放置状態の体たらく。

「俺はまだ本気出してない」というのは一番ダメだと自分の生徒に言いながら、この有り様…σ^_^;

昔と大きく異なるのは言うまでもなくネット環境の発達です。歴史的には無線で出会い、無線で関係を深めていくのがこの世界のスタンダードだったと思いますが、今はネット上での交流の方が盛んだったりなかったり。無線の古い友人との再会も Facebook 経由でしたし、コンテストでしか QSO したことがない方々との交流も Twitter や Facebook を通じてになっています。つい最近も、コンテストで度々交信していただいた方と Twitter で繋がり、日常的に Twitter で「交信」を楽しんだりしています。

ただ、「最初の一步」はやはり無線を通じて。ここがキモかと。「まったくランダムな人との出会い」だけは、今も昔もアマチュア無線最大のアドバンテージだと思います。年齢、性別、職業、国籍を越えた人との出会いの魅力は、ネット社会になった今でも、アマチュア無線に分がありそうです。つい先日もコンテストで「だけ」何度も交信していただいた方と、Twitter で交流が始まり、日々大いに盛り上がったりします。もちろん無線界のお約束で、近いうちにアイボールの予定も♪確かに若い方の減少に伴い、年齢層は偏りがちかとは思いますが（しかし最近気づいたのですが意外と 40 代以下の方もいらっしゃいます。中には中学生も☆）、それでも「世の中にこんな人もいたんだ」は無線を通じて発見し続けられているのではないのでしょうか。少なくとも私はそうです。

残念ながら衰退の一途を辿っているように見えるアマチュア無線界、ひょっとしたら「その最期」を看取ることになりかねないのは気がかりではありますが、心配してみても始まりません。とりあえず自分自身が「ちゃんと楽しみ」「一人でも多く巻き込む」だけです(^_^)